平成 24 年 11 月 5 日

今回の避難計画の原則について

長岡市長　森　　民　夫
（市町村による原子力安全対策
に関する研究会・代表幹事）

１、風向きを考慮した避難を前提とし、その直角方向に避難することを原則とした

（考察）

① 即時避難と段階避難の住民が、同時に避難を開始したとしても、多くの場合、錯綜しないことが確認できる。

② 風向きを考慮することで、複数の自治体間の調整が比較的容易になることが明確になり、それぞれの市町村の独自の避難計画を立案しやすくなる

③ 直角方向への避難であれば、とりあえずの危機を回避するためには、比較的短い距離で可能となることが確認できる

２、避難計画を、とりあえず危機を脱出することを主たる目的とした「一次避難」と長期間の避難「二次避難」と区別し、一次避難を重視した

（考察）

④ とりあえずの危機を脱出するための一次避難という概念を導入することにより、混乱時における避難先の確保が比較的近距離内で可能になる

⑤ 近距離であるがゆえに、県内の市町村間の調整で可能になるケースが多い

⑥ 遠方への避難に比較して、近距離であれば心理的に安心感が得られる

３、UPZ においては、一定期間の屋内退避を前提とし、時間をかけた計画的避難を行うこととした

（考察）

⑦ UPZ の定義から当然な概念と考えられるが、現実には、住民に対し強力に徹底しないと受け入れられにくい概念であろう。

⑧ 避難には相当な時間がかかるという現実を見据えれば、この原則を徹底しておくことが絶対条件となる